

平成 21 年 5 月 10 日現在

研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2006～2009
課題番号：18402038
研究課題名(和文) 非営利民間放送の持続可能な制度と社会的認知 コミュニティ放送のモデルを探る
研究課題名(英文) Action research for sustainable community based Private Non-Profit broadcasting : Theorizing from the model cases
研究代表者
松浦 さと子 (MATSUURA SATOKO)
龍谷大学・経済学部・准教授
研究者番号：60319788

研究分野： コミュニティ・メディア論、NPO 論、社会情報学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：非営利メディア、コミュニティ・メディア、オルタナティブメディア、公共性、社会運動、市民参加、民主化、コミュニケーションの権利

1. 研究計画の概要

規制緩和の余波で促成された日本のコミュニティ放送は、地域情報の共有や地域防災の必要性から開設数は増加しているが、株式会社の自立した経営が期待され、運営支援の制度や仕組みが政府レベルでも、地域レベルでも熟慮されてこなかったため、廃局も出ている。

しかし海外のコミュニティラジオは、「コミュニケーションの権利」に依拠した権利の実態装置として本来非営利で運営される公共的性格が濃厚で、支援システムが織り込まれた制度となっていたり、住民自治で寄付やカンパで持続可能な在り方に認知が行き渡っている。また、自治的な討議の回路としても有効で、政府権力と住民との対峙の際にも機能しているコミュニティ放送が少なくない。

本研究はそうした国外のコミュニティラジオのなかから、日本のモデル構築に役立つ事例や制度を探索し、日本との比較を行い、日本型のコミュニティラジオの在り方への提言に資する研究を行う。

各分担者が、使用言語や関心において対象国を決め、それらの国々のコミュニティラジオやコミュニティ(映像)チャンネルの実態と制度を調査し、成果を持ち寄り、比較検討や事例報告を公開の場で行う。

2. 研究の進捗状況

各国調査(アメリカ、カナダ、韓国、台湾、

ドイツ、フランス、メキシコ、ボリビア、コロンビア、イタリア)は各国担当者が探索し、最終年にイギリス、チェコ共和国、オーストラリアなどの調査が実施される予定である。予定になかったが、別の研究費とリエゾンで出版事業が重なり、そのために中間報告の出版ができたことは、社会の変化に即応できたと自負している。

3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している。

(理由)内的要因

4年間に学内外の助成金(龍谷大学社会科学研究所共同研究補助金、龍谷大学社会科学研究所出版助成、龍谷大学370周年事業基金、野村学術振興基金)を獲得できたため、当初予定になかった出版事業や、国内の放送実践者の合同研究会や国際シンポジウムの開催などで、予定になかった研究ネットワークが拡大した。

(理由)外的要因

コミュニティラジオの開設が相次ぐなか、当初奇特な存在であった国内の非営利放送局の勢力が伸長し、存在感を示すようになったため、当事者である国内非営利放送局の協力を思いのほか得られた。

また、そのような背景のなかで、世界コミュニティラジオ放送連盟日本協議会が2007年に発足するなど、この研究会とともに実践分野で研究ネットワークが貢献したことで、当事者研究が深まった。

4. 今後の研究の推進方策

前項で報告したが、さまざまな要因から研究の幅と深度において当初予定より研究規模が拡大しているため、各国調査はそれぞれの国の制度の変化(特にドイツ等)を追跡しなければならない状況に入っている。

経済事情の悪化から、コミュニティラジオの体制や番組内容、意義や経済的背景も変わってきており、その変化を追うために今後も研究を継続する必要を実感している。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計15件)

魚住真司「アメリカ・パブリックアクセスの集い 全米コミュニティ・メディア連合の首都総会から」『放送レポート』査読無 215号 2008 p.24-27

松浦哲郎「市民メディア～十人十色のメディア～」『おうみネット』査読無 2008年10・11月号 2008 p.1

川島隆「プレヒトのラジオ実験『リンドバーグの飛行』」『プレヒト演劇における言語, 身体, 振舞』査読無 54号 2008 p.14-25

[学会発表](計10件)

松浦哲郎「住民がつくる映像コンテンツと地域振興」KTR 駅物語上映シンポジウム 2009年3月27日 京都府宮津市

山口洋典「メディア・アクティヴィズムによる市民の主体性の喚起に関する一考察: イタリアの社会センターの実践を中心に」国際ボランティア学会第10回大会 2009年3月8日 お茶の水女子大学

林怡蓉「非営利放送の現代的な位置付け 台湾の放送生態環境を事例に」日本マス・コミュニケーション学会秋季大会 2008年11月1日 明治大学

UOZUMI, Shinji 他 “Global Media Outlets: Strengthening the Future of Community Media” The Alliance for Community Media: 2008 International Conference & Exhibition July 10, 2008 Omni Shoreham Hotel: Washington, D.C.

LIN Ijung, “The Role of Television in

Social Communication: A Comparison Analysis of the Television Discussion Programs in Japan and Taiwan” The 38th World Congress of the International Institute of Sociology 2008/6/29 Budapest, Hungary.

松浦さと子・小山帥人共同報告「フランスにおける非営利コミュニティ放送の支援体制」日本マス・コミュニケーション学会 2008年度春季研究発表会 2008年6月7日 中京大学

松浦哲郎「グローバリゼーションとメディア」環境・グローバリズム・メディア オルタナティブメディアはG8で何ができるか?(ワークショップ) 2008年5月31日 早稲田大学

松浦さと子「パーソナルムービーの公共性 個人記録映像の上映会とアーカイブ化の実践より」日本マス・コミュニケーション学会 マルチメディア委員会研究会 2008年4月19日 エルモ本社展示室

[図書](計4件)

松浦さと子 東信堂「市民社会のコミュニケーション・インフラを創る営み 市民メディアの展開と課題」『未来を拓く人文・社会科学』2009 p.105-116

松浦さと子「オルタナティブなニュース発信 当事者の視点と現場のまなざし」『よくわかるメディア・スタディーズ』2009 p.170-171

松浦さと子・小山帥人編 ミネルヴァ書房『非営利放送とは何か 市民が創るメディア』(各章著者に、研究分担者・連携研究者である小川明子、川島隆、松浦哲郎、日比野純一、林怡蓉) 2008 p.280

松浦さと子「協議コミュニケーション装置としての地域メディア 関係をつむぎ市民ジャーナリズムを担う地域人材の育成」『地域公共政策をになう人材育成 その現状と模索』『地域公共人材叢書全3巻』2008 p.195-201

[その他]

現在計画中の国際シンポジウムについて、ウェブサイトで内容予告を公開している。

<http://www.ryukoku370amarc.jp/>